

こやまさんと
かとうさん
うみへいく



こやまさんとかとうさん

こやまさんとかとうさんはだいのなかよしです。

あるひかとうさんがいいました。

ねえこやまさんわたしうみへ行ってみたいわ。

こやまさんはいいました。

かとうさんうみをみたことないの？

かとうさんはだまってしまいました。

こやまさんはこまってしまいました。

いいわじゃあいきましょう。

こやまさんはかとうさんにいいました。

うみ

ふたりが うみに ついたころには

あたりは まっくらに なっていました。

うみが よくみえない。

かとうさんは ぽつりと いいました。

こやまさんは かとうさんを みました。

かとうさんの かおは すこし おうどいろに みえました。

こやまさんは いやな よかんが しました。

そのまま こやまさんは みなかったことに しました。

くちぶえ

ふたりが うみに ついたころには

あたりは まっくらに なっていました。

うみが よくみえない。

かとうさんは ぽつりと いいました。

こやまさんは かとうさんを みました。

かとうさんの かおは すこし おうどいろに みえました。

こやまさんは いやな よかんが しました。

そのまま こやまさんは みなかったことに しました。

びん

かとうさんがゆびさしたさきをこやまさんはみました。

するとうみのむこうからちいさなびんがながれてきました。

かとうさんはむごんでたちあがりしました。

そしてうみにじゃぶじゃぶとはいっていきました。

こやまさんはおどろいてただぼうっとみていました。

ずぶぬれになったかとうさんのてには

ちいさなびんがにぎりしめられていました。

こやまさんはすこしこわくなりました。

なぜならかとうさんのかおがまたすこしおうどいろになっていたからでした。

なかみ

こやまさんは ききました。

かとうさん そのびんには なにが はいっているの？

かとうさんは いいました。

こやまさん このこと だれにも いっちゃあだめよ。

かとうさんは びんを そうっと こやまさんに わたしました。

こやまさんは おどろきのあまり こえが でませんでした。

そのびんのなかには ちいさなこびとが はいっていたのです。

こびとは たすけてくれと いわんばかりに

うちがわから びんを どんどんと たたいて いました。

かとうさんは はまべから それが みえていたのです。

こやまさんは かとうさんの しりよくにも おどろきました。

ひとまず ふたりは こびとを びんのまま いえにもって かえりました。

だんろにあたったかとうさんのかおいろはもとにもどっていました。

そうですさむさのあまりにかとうさんのかおはおうどいろになっていたのです。

こびと

かとうさんは そうっと びんから こびとを だしました。

こやまさんは だまって それを みていました。

びんからでた こびとは ふかぶかとおじぎを しました。

そうしたら すぐに また おおきなこえで どなりました。

こやまさんは いいました。

さむいのかしら？

かとうさんは いいました。

そうね おふろに いれて あげなくっちゃ。

そうって かとうさんは やかんで おゆを わかしました。

こびとも あんしん したのか ぼうぜんと そのようすを みていました。

かとうさんが あつあつのおゆを こっぷに いれて もってきて

こびとを そうっと つかみました。

すると こびとは また あばれ だしました。

かとうさんは びっくりして いきおいよく こびとを ねっとうに いれて しまいました。

みるみる うちに こびとは あかくなっ ていき ずん でいきました。

そうです その ふかい こっぷ だったのです。

ちょうり

こやまさんはいそいでこびとをこっぷからだしました。

くたっとしたこびとはきをうしなっているようでした。

かとうさんのかおをみてこやまさんはおどろきました。

おうどいろになっていたのです。

こやまさんはいいました。

かとうさん じんこうこきゅうよ。

かとうさんはこびとをみつめたまま なにもいいません。

こやまさんはいいました。

かとうさん？

かとうさんは なにもいわずに だいどころに いました。

もどってきたかとうさんの てには こしょうが もたれて いました。

なにをおもったのか その こしょうを めいっばい こびとに ふりかけました。

くしゃみ

それからしばらくしてこしょうまみれになったこびとをふたりはじっとみていました。

くしゅん。

かとうさんがくしゃみをしました。

くしゅん。

こやまさんもくしゃみをしました。

きづけばいつのまにかだんろのひはきえていました。

そうですさむさでまたかとうさんのかおはおうどいろだったのです。

くしゅん。

それはこびとのくしゃみでした。

ふたりはいそいでこびとのほうをみました。

めをさましたこびとがふたりとめがあうやいなやきょうふのかおをしました。

こわがらせてはいけないとおもったふたりはにこにことわらいながらこびとをみました。

こびとは こえも ださずに いちもくさんにはしり だしました。

あ。

かとうさんは いいました。

すると つくえのはしっこから こびとがおっこちて しまいました。

そのあと ふたりの めに うつったのは ペしゃんこになった こびとの すがたでした。

かとうさんは おいおいと なきだしました。

ひととおり なきおえた かとうさんが こやまさんを みると

こやまさんは のねずみの まるやきを たべて いました。

かとうさんが じっと それを みていると こやまさんは ひとくち くれました。

かとうさんは だまって それを たべました。

いのり

それからふたりはこびとをつちにうめました。

そうしてこびとのためとさきほどたべたのねずみのためにいのりをささげました。

ふたりはなかよくいえにもどってだんろであたたまりました。

こびとがはいっていたびんにはにわでつんだおはなをさしておきました。

かとうさんはいいました。

かわいいこびとさんだったねこやまさん。

こやまさんはいいました。

そうねかとうさん。